

J-25

ハルビンパークプロジェクト 地域観光産業となるテーマパークの提案

Harbin park project

Proposal of the theme park to be a regional tourism industry.

佐藤信治¹, 千葉雄介², 高橋翔³Sato Shinji¹, Chiba Yusuke², Takahashi Sho³

Currently, Harbin has a remarkable population move to the big city. Consumer market by population decline has been exposed to the crisis resulting in a reduction. Therefore, increasing the consumer from the Harbin area by the construction of a new theme park. In addition, to take advantage of the Harbin region-specific resources by mainly the regional tourism industry, it aims to regional activation by incorporating the elements of the experience type and exchange type.

1. はじめに

現在、ハルビンは大都市への人口移動が顕著である。人口減少により消費市場が縮小してしまう危機にさらされている。そこで、新たなテーマパークを建設することでハルビン市外からの消費者を増やす。さらに、地域観光産業を主体とすることによりハルビン地域固有の資源を活用し、体験型・交流型の要素を取り入れることで地域活性化を目指す。

2. 計画背景

2-1. 中華人民共和国黒竜江省ハルビン市

計画地となるハルビン市は中華人民共和国、北東の黒竜江省に位置する副省級市である。黒竜江省の経済の中心であり、人口 1000 万人を超える大都市でもある。日本では満州という地名として馴染みのある市もあり、冬と夏の寒暖差が非常に大きい顕著な大陸性気候である。一年の半分が冬であり、一月の平均気温は-18.6℃と世界の大都市の中では最も寒い部類に入る。そのためウィンタースポーツが活発であり、ハルビンには 400 を超えるスキー場がある。ハルビン氷祭りが有名である。

2-2. ハルビン市における地域観光業とは

ハルビン市は 12 世紀に一時代を築いた「金王朝」の首都であった。陶磁器など金独自の文化が今でも残されている。19 世紀中頃になるとロシアに外満州を割譲されロシアの影響を受けることとなる。ロシアにより満州を横断する東清鉄道建設が着手されると、交通の要所としてロシア人を始めとする人口が急激に増加し経済の発展を見るようになった。今でも「東方のモスク

ワ」と呼ばれている市街地では、聖ソフィア大聖堂を中心とし古い歴史をもつヨーロッパ風の建築が保存されている。その後、満州国となり日本の影響下に置かれる。今でも中国で唯一の日本町があり、昔は日本などの外国人と一緒に学ぶ機会が多くあったという。

このようにハルビンの地域としての特性は様々な国の歴史文化が入り混じった異色の町であることである。

3. 計画敷地

計画敷地はハルビン中心地から 25 km 離れている。車社会の中国では遠い距離ではなくむしろ近いと言える。900 年の歴史を持つエリアであり、敷地面積は 153 万㎡である。敷地中央には川が流れ周囲は緑に囲まれた自然豊かな土地である。北西部には 90 年以上の歴史があるオランダ建築の砂糖工場がある。敷地外の周りでは高層住宅が建設中であった。

4. 基本計画

日本の長崎にあるハウステンボスをモデルとしハルビンの地域性を活かした自然・文化・景観的に楽しめるテーマパークを目指す。

計画段階を大きく三つに分ける。

1) 「交通網・インフラの整備」

まず敷地調査の結果からメインロードを計画することで敷地の回遊性を高める。メインロードを主軸とし、アシストロード、ボードウォーク、川の経路、ブリッジを計画する。それによりアクセス性を高めるとともに同時にアメニティ空間を高める

1 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

2 : 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

3 : 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

2) 「各ゾーンと拠点のエリア分け」

1によってできたエリアに国を割り振る。哈爾濱の歴史から日本、ロシア、中国、クライアントの要望と敷地からオランダ、そしてすべての文化が混ざり新たな文化を作り出すミックスエリアを計画する。

3) 「各エリアの機能分布」

各エリアにテーマを持たせ機能を分ける。

① オランダエリア

テーマ：芸術の町

オランダの砂糖工場と景観の保存を目的とする。工場の一部を改修し、オランダの芸術や中国の創意産業と絡め合わせた現代アートエンターテインメントとする。

② ロシアエリア

テーマ：ロシアの文化と伝統的な街並み

ロシアの歴史的な街並みと伝統的な建築を再現。また、軸線による都市計画と宮殿を中心とした道沿いには巨大な建築群が立ち並び、ホテルなどの宿泊施設を計画する。

③ 中国エリア

テーマ：金の時代

ハルビンの歴史・気候・風土を利用した計画。ハルビンの歴史でもある金の時代をモチーフにし、冬場でも楽しめる屋内植物園等があるエリア。

④ 日本エリア

テーマ：室内アミューズメントパーク

ハルビン市における冬季の気温や降水量を考慮した巨大な室内型ドーム。日本のハワイアンズをモデルケースとし室内プールや温泉などを提供する。

⑤ 複合エリア

テーマ：室外アミューズメントパーク

4つの文化が混ざり合うことでできる体験型屋外アミューズメントパーク。各国のエリアを繋ぎまとめ、計画地の中心地となるエリア。

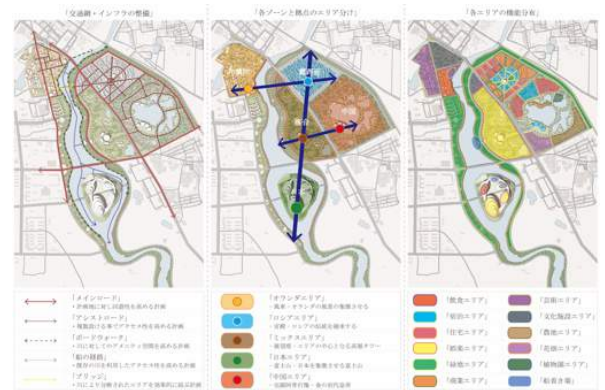


Figure1. Transportation system

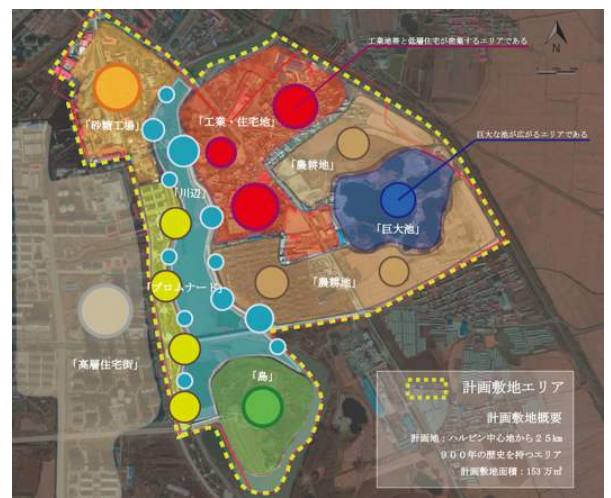


Figure2. Site plan

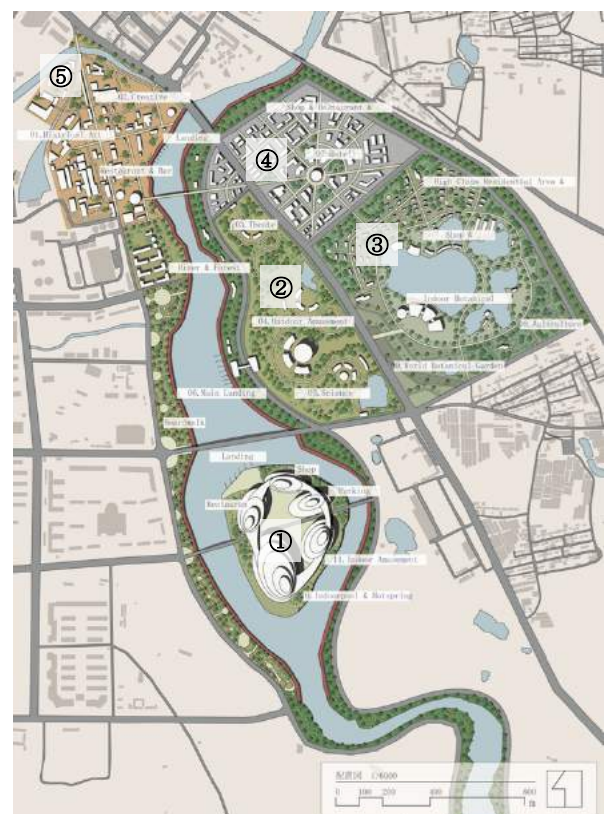


Figure3. Detailed plan View